

長崎県植物誌ノート(14)

中西 弘 樹

Hiroki NAKANISHI : Notes on the Flora of Nagasaki Prefecture (14)

Abstract: Six species, one subspecies and one variety including one alien plant which are newly found in Nagasaki Prefecture, and nine rare species are described in this paper. *Schoenoplectus juncoides* subsp. *juncoides* and *Nuphar oguraense* have been confused with *S. juncoides* subsp. *hotarui* and *N. subintegerrimum* respectively.

はじめに

本研究は長崎県のフロラの解明を目的とするもので、主として外山(1980)の「長崎県植物誌」および松林(1981)の「長崎県シダ植物誌」の目録に記されていない、いわゆる県新産の植物と、希産種の産地追加を記録する。記載は番号、種名、科名、産地、国土地理院5万分の1地形図の図幅名および4分割の位置、海拔、発見年月日、標本番号の順に記してある。調査の一部は県自然保護課川里弘孝氏、山道一志氏と行ったものである。また、対馬の永留浩氏にはキビヒトリシズカの自生地を案内していただいた。厚くお礼申し上げる。

県新産の植物

外山(1980)および松林(1981)の目録に記載されていないもので、筆者が確認したものを記しておく、一部はすでに記録されたものもあるが、文献名と共に新たにあげておく。

新産の在来種

167. オオバヤシャゼンマイ *Osmanda* × *intermedia* (Honda) Sugimoto (ゼンマイ科)

下県郡美津島町城山[仁位-4], 80m, May 15. 1994, (No.13674)

本種はヤシャゼンマイとゼンマイの雑種と考えられており、生育環境もそれら両種の間の中立地に生育している。しかし、分布は必ずしも両種の分布域内に限らないようで、対馬にはヤシャゼンマイは分布していない。対馬での生育地は川沿いで、点々と生育している。

168. ヒメシカクイ *Eleocharis* × *yezoensis* Hara (カヤツリグサ科)

南高来郡千々石町田代原[島原-3], 615m, Sep. 15. 1993, (No.13872)

すでに中西・中西(1995)によって報告されたもので、シカクイに似ているが、全体に小さく、穂は幅が約3mmで、ハリイとシカクイの雑種である。

169. ヤリハリイ *Elaeocharis congesta* D. Don.



図1 シズイ(東彼杵町)

var. *subvivipara* (Bockeler) T. Koyama (カヤツリグサ科)

南高来郡千々石町田代原 [島原—3], 615m, Sept. 15. 1993, (No13873)

本種も中西・中西 (1995) によって報告されたもので、ハリイに比べて大きく、穂は線状皮針形で、長さは6—10mmである。

170. シズイ (テガマヌマイ) *Schoenoplectus nipponicus* (Makino) T. Koyama (カヤツリグサ科), 図1

西彼杵郡大瀬戸町雪浦黒似田堤東 [神浦—1], 290m, Sept. 3. 1994, (No13839); 東彼杵郡東彼杵町大野原 [早岐—2], 430m, Oct. 8. 1994, (No14041; 14067)

北海道から九州の熊本県までの湿地にまれに生育する。桿は三角形で、カンガレイやサンカクイと似るが、全体に弱々しく、地下茎が発達する。花穂が出れば、それらとは容易に区別できる。

171. イヌホタルイ *Schoenoplectus juncoides* (Roxb.) Palla subsp. *juncoides* (カヤツリグサ科)

南松浦郡玉之浦町島山島向小浦 [玉之浦—3], 1 m, Sept. 23. 1994, (No14000); 同町大宝 [玉之浦—1], 5 m, Sept. 23. 1994, (No14004); 福江市久賀上の平川 [福江—3], 50m, Sept. 24. 1994, (No14009); 東彼杵郡東彼杵町大野原 [早岐—2], 430m, Oct. 8. 1994, (No14048); 同町一ツ石郷 [大村—1], 300m, Oct. 8. 1994, (No14048); 同町蕉郷 [早岐—2], 390m, Oct. 8. 1994, (No14089); 北松浦郡福島町喜内瀬免 [唐津—4], 10m, Sept. 18. 1994, (No14105); 南松浦郡上五島町浅子 [有川—2], 70m, Nov. 13. 1994, (No14174)

ホタルイに似ており、これまで混同されてきたが、角野 (1994) によってその形態や生態の違いが明らかにされた。ホタルイの小穂に比べてやや細長く、先端が尖る。県内にも放棄水田



図2 オグラコウホネ (岐宿町)

にふつうに見られることがわかった。ホタルイも放棄水田にイヌホタルイと共に生育していることがあるが、一般にはもっと自然度の高い湿地に生育している。

172. オグラコウホネ *Nuphar oguraense* Miki (コウホネ科), 図2

南松浦郡岐宿町寺脇 [三井楽—4], 80m, Sept. 23. 1994, (No13929); 同町松山 [三井楽—4], 80m, Sept. 25. 1994, (No13936)

これまで福江島にヒメコウホネが産することが知られていた (外山1980) が、3か所の自生地を調べた結果、いずれもヒメコウホネではなく、オグラコウホネであった。ヒメコウホネとオグラコウホネは葉柄の構造が全く異なり、その違いによ水位が低下した時にヒメコウホネは葉が水上に上がった抽水形をとる。

173. キビヒトリシズカ *Chlorantus fortunei* (A. Gray) Solms-Laub. (センリョウ科)

下県郡美津島町玉調 [仁位—2], 20m, May 13. 1994, (No13671)

大陸系の植物で、日本ではこれまで東京、岡山、香川、広島、長崎県壱岐に隔離分布することが知られていたが、対馬には長い間知られていなかった。本種を対馬から初めて記録したのは永留 (1978) であり、美津島町には希ではない。

新産の帰化植物

174. ミツバオオハンゴウソウ *Rudbeckia triloba* L. (キク科)

諫早市貝津町[肥前小浜—3], 20m, Sept. 4. 1994, (No13852)

北米原産の帰化植物で、近年関東地方を中心として広がっている(長田1976)。九州ではその報告を知らない。頭花は橙黄色の舌状花で囲まれ、径2.5—4 cmで美しい。葉は上部では分裂しないが、下部のものは3裂する。

希少植物の産地追加

124. テツホシダ *Thelypteris interrupta* (Willd.) K. Iwatsuki (オシダ科)

福江市久賀蔵町福見[福江—1], 80m, Sept. 24. 1994, (No13965); 南松浦郡若松町石司[漁生浦—2], 2 m, Nov. 12. 1994, (No14167; 14168)

海岸近くの日当たりのよい湿地に群生する。県内ではこれまで三和町、琴海町、小長井町、富江町に知られていた(外山1980; 松林1981)。

125. ヤマトミクリ *Sparganium fallax* Graebn. (ミクリ科)

北松浦郡世知原町平川原池[伊万里—4], 420 m, Oct. 1. 1994, (No14017); 東彼杵郡東彼杵町大野原[早岐—2], 430m, Oct. 8. 1994, (No14052)



図3 マツカサススキ(厳原町)

これまで諫早市、大村市、琴海町から知られていた(中西1993)が、県本土に広く分布していることがわかった。しかし、本種はレッド・データ・ブックに記録されており、近年少なくなりつつある植物である。

126. コマツカサススキ *Scirpus fuirenoides* Maxim. (カヤツリグサ科)

東彼杵郡東彼杵町大野原[早岐—2], 43m, Oct. 10. 1994, (No14066)

これまで大村市、小長井町、琴海町から知られていた(中西1993)が、上記の地の池畔に多く生育しているのを見つけた。

127. マツカサススキ *Scirpus mitsukurianus* Makino (カヤツリグサ科), 図3

下県郡厳原町鮎尻[厳原—4], 150m, Sept. 11. 1994, (No13894); 同町内山[厳原—4], Sept. 10. 1994, (No13901)

これまで県内では大村市から知られていたのみである。

128. イヌタヌキモ *Utricularia tenuicaulis* Miki (タヌキモ科)

南高来郡加津佐町六反田名[口之津—1], 100 m, Sept. 7. 1994, (No13920)

長崎県からは中西(1993)によって初めて記録されたが、これまで県内からタヌキモとして報告されたのはイヌタヌキモであろう。県内に広く分布していることと思われる。

129. ムカゴニンジン *Sium sisarum* L. (セリ科)

南松浦郡岐宿町中岳北部[三井楽—4], 70 m, Sept. 23. 1994, (No13992)

湿地に生育する多年草で、茎はやや細いが、他の植物にもたれて長く伸長する。県内ではこれまで諫早市のみ知られていた。

130. ネコノチチ *Rhamnella fraguloides* (Maxim.) Weberb. (クロウメモドキ科)

南高来郡国見町田代原[島原—3], 620m, Sept. 15. 1994, (No13879)

これまで多良岳や北松国見岳、瑞穂町岩戸山に知られていたが、雲仙岳では初めての記録である。

131. ヒゴビャクゼン (ロクオンソウ) *Cynanchum amplexicaule* (Sieb. et Zucc.) Hemsl. (ガガイモ科)

大村市五の郷 [大村-1], 280m, Oct. 8. 1994, (No14095; 14096)

九州にまれに生育する草本であり、1989年版レッド・データ・ブックには現状不明としてあるが、1993年に福江島から記録し (中西1994), 続いて大村市にも生育しているのを見つけた。この生育地の個体数は多く、保存対策を講ずる必要がある。生育地はいずれも池畔である。

132. ヒロハマツナ *Suaeda malacosperma* Hara (アカザ科), 図4

南松浦郡上五島町三日の浦 [有川-3], 1m, Nov. 12. 1994, (No14177; 14178)

本種の産地として、外山 (1980) は大村湾沿岸と口の津町をあげているが、その後長崎市土井の首、対馬豊玉町 (伊藤・中西1987), 佐世保 (川内野1994) などにも産することがわかってきた、今回五島列島で発見したことによって、県下に広く分布していることが明らかとなった。上記の産地は下流から河口に発達したもので、ヒロハマツナのほかハマサジ、ウラギク、ホソバノハマアカザ、ナガミノオニシバ、シオクグなどが群落を形成しており、上五島では最も広

大な塩湿地である。

文 献

角野康郎 (1994): 日本水草図鑑. 138pp. 文一総合出版, 東京.

松林文作 (1981): 長崎県シダ植物誌. 104pp. 長崎県出版文化協会, 長崎.

永留 浩 (1978): 植物. 美津島町誌 (町誌編集委員会編) pp.48-67. 美津島町.

中西弘樹 (1993): 長崎県植物誌ノート(11). 長崎県生物学会誌42: 25-27.

——— (1994): 長崎県植物誌ノート(12). 長崎県生物学会誌44: 11-14.

中西こずえ・中西弘樹 (1995): 雲仙・田代原のフロラと植生—コアナミズゴケと湿地植物を主として. 長崎大学教養部紀要自然科学篇 35: 83-93.

伊藤秀三・中西弘樹 (1987): 対馬の自然植生. 対馬の自然 (長崎県) pp.21-62.

川内野善治 (1994): 北松浦半島の植物観察記録 (3). 長崎県生物学会誌43: 39-44.

外山三郎 (1980): 長崎県植物誌. 321pp. 長崎県生物学会, 長崎.

(なかにし・ひろき; 〒850 長崎市弥生町666 長崎女子短期大学)



図4 ヒロハマツナ (上五島町)